

【講義メモ】担当:平野正喜(ひらのまさき)

この講座ではプロジェクトに講義メモを書きながら進めます。この文字サイズの読める席にお座りください。

18:15~20:45(途中休憩有)。受講者数は13人です。

この講義メモは講義終了と同時に下記のサイトにPDFで掲載し、ダウンロード可能にします。

ご利用ください。次回予告も掲載します。質問やコメントが送信可能です。

<https://tkuip.rundog.org>

第1章 企業と法務

p.10 1-1-1 企業活動

- CSR=コーポレート(企業)ソーシャル(社会的)レスポンシビリティ(責任)
- SRI=ソーシャリー(社会的)レスポンシブル(責任)インベストメント(投資)
- SDGs=サステナブル(継続可能な)デベロップメント(開発)ゴール(目標)
- CFP=カーボン(二酸化炭素)フットプリント(排出量掲示)
- MVV=ミッション(企業の存在目的)ビジョン(理想の姿)バリュー(価値観)

p.11 1-1-2 経営資源

- CDP=キャリア(経歴)デベロップメント(開発)プログラム
- MBO=マネジメント(管理)バイ・オブジェクティブ(目標)&セルフコントロール(自己管理)
- OJT=オンジョブ(業務上)トレーニング、実地訓練
- OffJT=オフジョブ(業務外)トレーニング

p.12 1-1-3 経営管理

- PDCA=プラン(計画)ドゥ(実行)チェック(検証・評価)アクト(改善)
- HRM=ヒューマンリソース(人材)マネジメント(管理)
- DE&I=ダイバーシティ(多様性のある人材の採用)エクイエティ(人材資本)インクルージョン(包含)
- BCP=ビジネス(事業)コンティニュイティ(継続)プラン(計画)
- BCM=ビジネス(事業)コンティニュイティ(継続)マネジメント(管理)

p.13 1-1-4 経営組織

- CxO=チーフ(責任者)X・オフィサー(執行役員・取締役)
- CEO=〃・エグゼクティブ(経営)・〃、最高経営責任者
- CIO=〃・インフォメーション(情報)・〃、最高情報責任者 ※情報戦略が役割
- CFO=〃・ファイナンシャル(財務)・〃、最高財務責任者 ※財務戦略が役割
- COO=〃・オペレーション(運営)・〃、最高運営責任者 ※業務戦略が役割
- 【補足】代表的な経営組織の形態の変化の一例: 職能別⇒階層型⇒事業部制⇒カンパニ制

p.15 1-1-5 社会におけるIT利活用

- IoT=インターネット・オブ・シングス(物):コンピュータ、通信機器以外をインターネットに直結させること/させた物
- AI=アーティフィシャル(人工)インテリジェンス(知能)
- DX=デジタル・トランスフォーメーション(相互利活用)
- GX=グリーン(環境・クリーンエネルギー)・トランスフォーメーション(相互利活用)

p.16 1-2-1 業務の把握

・OR=オペレーション(経営・業務執行)リサーチ(調査・研究)、問題解決手法群

・IE=インダストリアル(経営・運用)エンジニアリング(工学)、経営工学

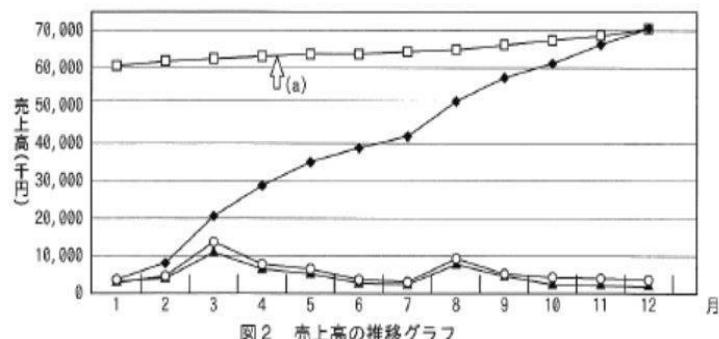
p.16 1-2-2 業務分析と業務計画

・【補足】グラフの使い分け: ①円(帯)グラフ=構成比率(シェア)用 ②棒グラフ=値の大小を示す ③折れ線グラフ=値の変化を示す

・【補足】Zグラフ: 右が出題例。下線は月ごとの値、斜線はその累計、上線を移動合計といい、その月までの 12 か月の合計。移動合計が右上がりであれば好調とみなす。

・【補足】レーダチャート: バランスを示す

・【補足】パレート図: 項目ごとの降順(大から小)の棒グラフに、累計またはその割



合の折れ線グラフを重ねたもの。どの項目まででどういう割合になるかを見て、優先項目を決める。項目をABCに3分割するのがABC分析で、A群(例:構成比80%)に入った項目を優先する。

・【補足】管理図: 主に品質値の時系列の折れ線グラフで、正常値の範囲を管理限界線で示す。これを超えるか超えそうな傾向が観られたら要注意とする

・【補足】ヒストグラム: 棒間を開けない棒グラフで、区間ごとの件数を示すことで、分布状況を表す

・【補足】特性要因図: 結果(特性)とその原因(要因)の関係を魚の骨状に図示する手法。骨の位置や太さで関連性や重要性を示すことができる

・【補足】散布図: 2項目の値による点グラフ。2項目の関係=相関の方向と強さを表す。右上がりなら「正の相関」、右下がりなら「負の相関」、どちらでもなければ「無相関」。直線状になれば「強い相関」。p.21 の例の身長と体重は「弱い正の相関」。これを数式化したものが回帰直線。回帰直線と値の関係から得られる数値が相関係数で、強い相関では1に近づく。

p.22 1-2-3 アローダイヤグラム

・【補足】アローダイヤグラム: 工程管理表に並行する工程がある場合に用いる図法。全体の所要時間や時間的余裕のある工程とない工程、遅れた場合の影響などを分析できる。矢印で工程、○で工程のつなぎ目(結合点)を示す。複数の工程の矢印が入る結合点では、そのすべてが終わらないと先にすすめないのがポイント。

・【補足】ダミー作業: 複数の工程の条件になる工程があり、通常の矢印では表せない場合に「この工程も条件である」ことを示すための「作業のない工程」。p.22 の図の場合、作業5は作業1と作業2が条件だが、作業1は作業4の条件でもあるので、作業1から作業5に向かってダミー作業の作業3を書くことで表している。

・【参考】p.22 の図をインスタントラーメンのレシピで例えると: 作業1=湯を沸かす、作業2=具材を用意する、作業4=メンをゆでる、作業5=スープを作る

・【補足】クリティカルパス: 最重要経路。時間的余裕がない工程の並び。よって、最も重視されるべき工程だが、含まれない工程の遅れによっては変化することがある。

・【補足】最早結合点時刻: 結合点ごとに「ここにいつ到達するか」を示す時刻。合流点においては最大値を用いる。最後の結合点の最早結合点時刻が全体の完了時刻。

・【補足】アローダイヤグラムの出題: PERTとしてマネジメント系(プロジェクトマネジメント)の

問題として出題されやすい。例題もマネジメント系にて (p.119)

p.24 1-2-4 データ利活用

- ・BI=ビジネス(業務)インテリジェンス(知的化=データの利活用のこと)

- ・【補足】データマイニング:データの採掘のことで、ビッグデータを格納したデータウェアハウス(データの倉庫)から法則や特性を得ること。例:「金曜日におむつを買う男性はビールも買う」

p.25 1-2-5 問題解決手法

- ・【補足】ブレーンストーミングの活用例:新作ゲームのアイディア出し。

- ・【補足】親和図法:グループ化したものにつける名前を「表札」という。

p.27 1-3-1 財務諸表

- ・【補足】財務諸表の作成目的:株主(投資家)などのステークホルダ(利害関係者)に対する経営報告

- ・【補足】キャッシュフロー計算書:資金繰りや資金の変動を、3領域(営業、投資、財務)の活動において示すもの。過去には黒字倒産の防止に有効とされた。

今日の問題: 変化を表すのに適するのは?

ア 円グラフ イ 棒グラフ ウ 折れ線グラフ エ パレート図

次回予告:p.27 1-3-1 財務諸表(続き)から

※「ITパスポート過去問題集」は自宅での予習・復習用としますので、持参は不要です